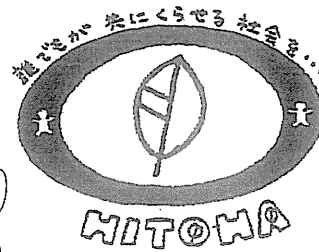


ひとほ

(題字: 三井 裕森)



社会福祉法人 ひとほ福祉会
〒739-1203
広島県安芸高田市向原町長田1857番地
TEL(0826)46-2960 FAX(0826)46-4355

(ホムア°-ジプト°) http://hitoha-fukushi.com (メルアド°) honbu@hitoha-fukushi.com

新しい1年がスタートし、約1か月が経ちました。年明け早々に能登半島地震等、大きな地震や事故が起きており、被災された皆様にはお悔やみとお見舞いを申し上げ、一日も早く平穏な日々が戻ってくることを祈るばかりです。

さて、昨年を振り返ってみますと、5月にコロナが5類に移行されたことから、完璧にとまではいきませんが、これまでの日常が戻ってきていると感じることのできる1年でした。ひとほ全体としては4年ぶりにひとほまつりの開催、あぷろとしてあぷろフェアを開催することができ、3年間できなかったことが再びできるようになってきています。どうしても人との接触を少なくしなければならなかった時期でもあったことから、皆で一緒に過ごす時間はやはり大切であると実感したところでした。

しかしながら、まだコロナも完全になくなったわけではありませんし、インフルエンザも猛威を振るっています。皆さんも健康には留意されながら色々なことを楽しんで過ごしていただければと思います。

あぷろでは仕事始めの日に毎年抱負をみんなと書き、少し紹介しますと

あまりしつこくならないようにしよう

澤井 美穂

自分に正直になる

賀張 勝

石川さおりさんと井上憲二さんの顔を描きます

道下 智樹

ちなみに私は「ケセラセラ」としました。

自分なりの力を精一杯発揮し、諦めずやり遂げ

ることを目標に今年も1年頑張ります。

(就労センターあぷろ 城崎高治)

スワップ紹介

名前 六ヶ所 哲郎

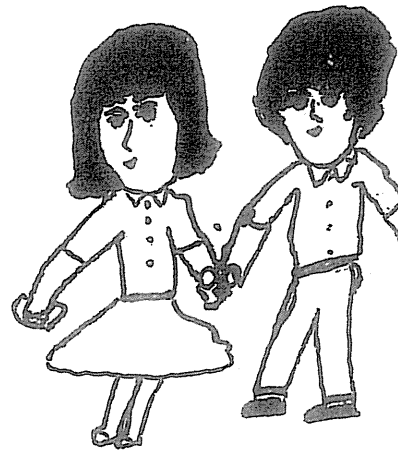
所属 共同ホームひとほ

ふってわいた3,000円。使うなら何?

食事に使う。

向原町在住の田川幸義さんにインタビューをしました。

5、6年前からひとほでアート講師として来ています。障害のある方と関わることは初めてでしたが、自分の絵と共通するところがあり、むしろ今は勉強させてもらっています。“おしれだよねー”と思うこともあり、“やられたー”と思うこともあります。そんな発想は滯ってこないよ。



「洋子ちゃんといっしょに絵を最後にした」

絵: 本田 玲二

ひとほ工房ひとほ窯でのアート活動

田丸さんは形を描いて、色を塗っています。それだけでは寂しいので、色を重ね合わせてはどうかと話す、微妙な、良い色合いになりました。

「レモンイエローのうさぎに、赤を重ねたらどうかね?」

川崎さんは本が来た時から絵が完成されています。今年の挑戦として、二科展に出品したいと思っています。絶対いけますよ。

本田さんは思い出の中から絵を描いています。茶色と黄土色の色使いが素敵。

「これに赤を入れたらどうかね?」
「赤はいらん」と本田さん。

絵が苦手なんですという人が絵を描くとおもしろい作品が出来上がります。ここで関わる人たちの可能性を引き出した。筆一本にしても、今までにない作品が出来ることがあります。

松岡さん、谷本さんデザインの看板! 窯の入り口にありす。



「なにごとじゃ！」

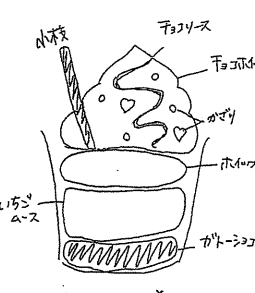
ひ

あ、あのトイレ内に「おたすけボタン(ナスコール的なもの)」を設置しました。
そして、ある日の活動中「ピンポンポンポン♪」とおたすけの音!
「どしたの?」とスタッフがトイレに向かうと、廣田さんがトイレ内に。
「押してみたかったの」と、ほんわかした声で答えてくれ、スタッフも「よかった」... みんな元気で「おたすけボタン」を使うことが無いようにと、日々願っています。
(就労センター あぶ 益田 博え)

「とっておきのデザート」

は

趣味であるお菓子作りですが、お声掛けいただきホームのクリスマス会のケーキを作りました。
セリ始めたら凝り性なところもあって、あれもこれも...と気付けば山盛り。
当日は食べている所を見られませんでした。
次、朝、美江さんが「美味しかった」と嬉しそうに話され、達成感120%で終えました。
喜びの声を聞けると「よし、また頑張っ作ろう!」と思えるのでとても嬉しいです。
次はバレンタインにちよと張り切ってデザートを作る計画をしております♪
(食事部 上田 真実) バレンタインデザートイメージ



「沖さんと私」

日

入社して1か月たった頃、沖本さんと話すことも難しい私を見て「うっちゃん」と何度かホームスタッフが伝えて名前を覚えてもらおうとしました。すると「あ、ちゃん」と笑顔で呼んでくれるようになりました。
一度コミュニケーションがとれると仲良くでき、通院に行く時、ホームに帰所した時、機嫌よく過ごしていることが増えました。
一瞬で感情が変わることのある方ですが、怒りそうかなと思っても、そと側に寄り添うようにしています。
(共同ホームひとは 内渥 美由紀)

白井くみこ

「これはお母さんの予定」
くらむぼんで高等部1年生のYさんは最年長で、みんなから憧れられる存在。彼女もそのことを自覚しており「くらむぼんのお姉さん」として他の子ども達と接していたが、その頃のYさんにとって「お母さん」の存在は大きく、何をするにもお母さんの意見を聞いてから決めていた。
Yさんに、もっと自分の思いを持てるようになってほしいと考え、くらむぼんでの過ごし方はYさんと一緒に考えることにした。

学校の代休日、Yさんと相談して映画を観に行くことになり、ネットで調べ、彼女が選んだのは恋愛映画。観終わった後感想を聞くと、恥ずかしそうに「ドキドキした」と答えた。この出来事がきっかけになり、映画のオフィシャルブックや原作小説を買ったり、出演していた俳優の写真集を探して本屋さんまで一緒に買いに行ったりと、「ほしいもの」が広がっていった。その頃から、学校代休日の過ごし方を、少しずつ彼女の方から提案してくれるようになった。

ある日、Yさんが次月の利用希望申込書を持ってきた。「来月も変わらんペースで来るんじゃね」と、何気なく話しかけると、「いや、これはお母さんの予定じゃけん、変わるかもしれん」という言葉。私は内心とても驚いてしまった。何かを決める時には必ずお母さんを頼っていたYさんが、自分自身の予定を意識するようになっていたのだ。

“やりたいこと”を自分で考え、決められる力を身につけることがいかにその人の世界を広げ、人生を豊かにすることか。そして、その力を身につけて社会に出ることが、今後の人生をどれだけ広げていくのか。「来月は〇日が代休日だね。何をするか考えてきてね」と話をする。「分かりました」と目を輝かせるYさん。彼女の将来の世界を少しずつ広げていると想像するだけで、次は何をしよう、と私も心が躍るのである。

後日談

現在社会人4年目のYさんは、銀行職員として働いています。先日近況を聞いたときには「白井さん、ソレイユに猫カフェがあるの知ってますか」と休日に出かけた日時の猫の写真を見せてくれました。後輩もでき、仕事帰りに寄り道したりと充実した日々を送っているようです。(白井)

年男の山野さんは 魚火役の一人に。近年もろは施設おは敬遠
されがらにのち、小まくちぎって、おとどろ油で直接口に。とどなるではの食バガで。気づくと廣張さんお酒の酒でほろ酔い。
田守さんの鹿肉、金剛さんのつけもの、完食。
今年のおは、ひとはの人たちが、お陽しやくお礼に。 寺尾順子

今、某の絞る記